

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

放出小	学校	児童数	98
-----	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.80	18.88	31.61	38.08	45.16	9.42	148.61	20.35	51.10
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	17.26	17.68	38.61	34.54	35.68	9.57	138.04	12.36	52.87
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

- 体力合計点は男女ともに全国平均より約1P以上低いものの、市平均と同水準であった。
- 質問紙調査では、「運動スポーツをすることは好きですか」の肯定回答は男92.1%、女子は87.2%であり、全国平均と同水準である。
- 1週間の総運動時間では、男子が市平均より26分、全国より34分多く、女子が市・全国平均より1分多かった。一方、60分未満の割合は、男子14.3%、女子19.2%で、全国平均より男子は5.5P多く、女子は3.2P多くなり、運動習慣が身についている児童は全体的に多いものの、運動の習慣があまりない児童の割合が多い。
- 各種目の結果より、市・全国を男女ともに上回っているのは、「握力」と「50m走」であった。一方、男女ともに市・全国平均を下回るものは、「上体起こし」「反復横跳び」「ソフトボール投げ」であった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまでの4年間「走の運動遊び」を日常の体育科学習の導入に取り入れ、走力強化について重点的に取り組んできた。結果、児童の走力は高まり、今年度は大阪市・全国平均よりも上回る結果という成果となった。一方、「反復横跳び」「ソフトボール投げ」から分かる俊敏性・瞬発力（投）については、過去3年の結果を見ても、大阪市・全国平均を下回っており、同様の結果であることから、本校の課題であると言える。

今後は、児童の体力保持・増進のための取り組みを継続して行い、課題ともなっていた俊敏性や瞬発力（投）を高める運動や遊びを体育科学習の導入時に跳躍系の運動や遊びを取り入れたり、教職員の指導力向上のための研修会を設定したりするようにしていく。